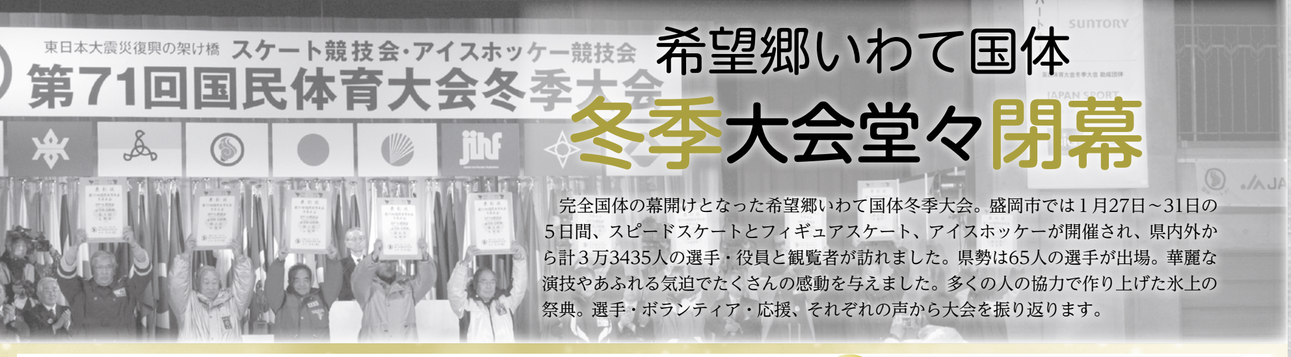


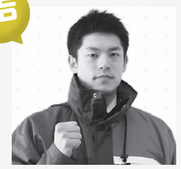
希望郷いわて国体 冬季大会堂々閉幕

完全国体の幕開けとなった希望郷いわて国体冬季大会。盛岡市では1月27日～31日の5日間、スピードスケートとフィギュアスケート、アイスホッケーが開催され、県内外から計3万3435人の選手・役員と観覧者が訪れました。県勢は65人の選手が出場。華麗な演技やあふれる気迫でたくさんの感動を与えました。多くの人の協力で作り上げた氷上の祭典。選手・ボランティア・応援、それぞれの声から大会を振り返ります。

選手団

全国44都道府県から、2競技3種目合計2244人の選手が盛岡に集結。各県の代表が、氷上で熱い戦いを繰り広げました。特に、スピードスケートは県勢が入賞ラッシュ。地元開催に燃える選手たちの意気込みが結果につながりました。成年男子5000㍍2位に渡部知也選手（県体育協会）、同500㍍、1000㍍3位に池田晋一朗選手（盛岡市役所）、少年男子500㍍3位に斉藤龍汰選手（盛岡工高3年）が表彰台を飾りました。また、フィギュアスケート成年男子個人総合では佐藤洸彬選手（岩手大2年）が3位に。都道府県対抗のスケート競技会の天皇杯（正式競技の男女総合成績）では岩手県が4位入賞。アイスホッケー競技では少年・成年共に惜しくも一回戦敗退となりましたが、最後まで攻めの姿勢で奮闘しました。チーム岩手一丸となって臨んだ今大会。盛岡開催の競技では27入賞（競技得点対象のみ）するなど、これまでの練習の成果を示しました。

声 地元の声援に後押しされた最高の舞台



池田晋一朗さん（26）＝盛岡市役所＝

県選手団の旗手を務めた開始式では、会場に流れる演奏や映像、響き渡る小・中学生の声援など、最高の舞台に感極まってしまいました。監督とトレーナー陣には精神・肉体の両面で支えてもらい、選手同士互いに応援し合うなど団結。全力を出し切り、自身の競技人生を有終の美で飾ることができました。これも大会に関わった大勢の人のおかげと感謝しています。「完全国体」のためか、こんなに盛り上げてもらえた国体は初めて。他県の選手からもそうした声が聞かれました。本大会も声援で選手を後押ししてほしいです。

ボランティア

冷え込む会場でも、選手団や観覧者が気持ち良く国体を満喫できるようボランティアが大活躍。休憩所では、豚汁やひっつみなど地元の食材を使った料理が振る舞われ、岩手の魅力をPRするとともに来場者の心と体を温めました。また、選手が最大限の力を発揮できるよう、会場設営やリンクの整氷作業、会場の清掃もボランティアの協力によって行われました。舞台裏でも選手団らをサポートし、競技会場をおもてなしの心で満たしたボランティア。大会成功に大きく貢献しました。

▶清掃ボランティア

▼豚汁のお振る舞い

◀会場設営ボランティア

声 南部麩を使った豚汁で温かいおもてなし

本宮第四町内会

地元開催の国体で何かお手伝いできることがあればと、アイスアリーナの入り口で約300食分の豚汁を振る舞いました。手作りのとふっち三角巾を全員で身に着け、具には郷土の食材「南部麩」を使用。「おいしかった」「体が温まった」などの言葉を掛けてもらいました。中には「南部麩はどこで買えるの？」と興味を持ってくれた人も。本大会でも、何かできることがあれば協力したいと思っています。

応援

地元岩手の選手のみならず他県の選手へも熱い応援が送られました。高速で先頭争いをするスピードスケートや激しい接触のあるアイスホッケーでは、スティックバルーンなどを使ったにぎやかな応援が。一方、フィギュアスケートでは演技に集中させようと、技の成功・演技終了時のみ拍手が送られるなど競技によっても応援の形はさまざま。競技終了後には、全力を出し切った選手への惜しみない拍手と「お疲れさま！」の言葉があふれた会場。当日の声援や各会場に飾られた応援のぼり旗は選手たちにとって大きな力となりました。

声 チームの一員になったつもりで応援

佐藤芽生さん＝山岸小6年＝

アイスホッケーの試合を初めて会場で観戦しました。想像以上のスピード感があり、選手同士のぶつかり合いが激しくて驚きました。「勝ち負けだけでなく自分が誇れるプレーをしてほしい！」という思いで、自分もチームの一員になったつもりで応援しました。何人も相手をかわしてゴールを決めたプレーが印象に残っています。本大会では、自分がやっているテニス競技はもちろん、これまでにやったことのない競技の応援にも行ってみたいです。

いよいよ本大会へ！

冬季大会が終わり、次はいよいよ秋の本大会。9月の会期前実施競技の水泳を皮切りに、10月1日～11日の大会期間には盛岡でもサッカーやテニスなど多くの競技が開催されます。本大会では、冬季大会以上に県内外から選手団や観覧者が訪れることが予想されます。東日本大震災からの復興と支援への感謝を示す機会でもある今国体。冬季大会での勢いを継続し、一層のおもてなしの心で最後まで盛り上げていきましょう。

大会に参加・協力いただいたみなさん、ありがとうございました。

室内飼いで 人も猫もハッピーライフ

猫は大昔から人と共に暮らしてきた動物。その可愛らしさは人の心に喜びや癒しを与えてくれます。本号では、人と猫のより良い付き合い方について考えます。担当は市保健所生活衛生課☎603-8311。

1 外に居る猫、幸せ？　不幸せ？

猫はかつて、放し飼いにされることが一般的で、農作物を食べたり病原菌を広めるネズミを退治することで重宝されていました。しかし現代では、ネズミ退治のためではなく、家族の一員であるペットとして飼われることがほとんど。放し飼いにする理由はほぼなくなりました。むしろ、猫を外に出すことは、猫と人にとってさまざまな弊害をもたらします。

外に居る猫の過酷な環境

猫はもともと温暖な環境を好むため、盛岡の厳しい冬は過酷です。また、外では交通事故に遭ったり、カラスなどの野生動物に攻撃されて命を落とすことも。猫同士の争いで傷つき、それが原因で重い病気になることもあります。さらに、住宅地では鳴き声やふん尿で迷惑がられ、追い払われたり虐待されることも…。猫にとって一番安心・安全なのは、愛情を持った飼い主の下で暮らす「飼い猫」になり、室内で過ごすことです。

やめよう！　無責任な餌やり

凍てつく冬空の下、外をうろうろしている猫を見て「かわいそう」と感じる人もいるのではないでしょうか。「せめて餌だけでも…」と手を差し伸べる人がいますが、とりあえず空腹だけ満たされた猫がそこで繁殖すれば、結果として過酷な環境で暮らす猫がさらに増えてしまうだけ。地域にとっても迷惑な存在となってしまいます。

「飼い猫」が難しいなら「地域猫」に

全ての猫を、安心・安全な「飼い猫」にすることは大変です。そこで市は、「地域ねこ活動」を応援しています。地域で人も猫も住みやすくなるためのルールを決め、猫を適正に管理する「地域ねこ活動」を、あなたの地域でも始めてみませんか。

※地域ねこ活動について詳しくは、生活衛生課へお問い合わせください

「飼い猫」になって幸せに暮らす猫たち

茶々　メス・4歳（推定）

大型スーパー周辺に住み着き、店内へ頻繁に入り込むため迷惑がられていました。保護された時は栄養状態が悪く痩せ細り、貧血もあったため1カ月以上療養。その後「飼い猫」になり、今では家族のそばで寝そべって甘えたり、おもちゃで一緒に遊んだりするようになりました。

もも　メス・2歳

親兄弟もなく、生後4カ月くらいで1匹で放浪していました。保護された時は痩せていて、くしゃみ・鼻水など風邪の症状や下痢に苦しんでいました。「飼い猫」になった今は、家族に大切にされ幸せに暮らしています。

2 人も猫も幸せ　室内飼いの魅力

猫は本来、待ち伏せ型の捕食動物で、一日のほとんどを気に入った場所で寝て過ごします。行動範囲はそれほど広くないため、家の中だけでも十分幸せに暮らすことができ、飼い主にとっても安心と癒しを与えてくれます。猫を飼うなら必ず室内で飼いましょう。

室内飼いの猫は長生き

室内飼いの猫は、家の中と外を自由に行き来している猫に比べ病気やけがのリスクが低くなり、1.3倍長生きするといわれています。

猫とのコミュニケーション

リラックスできる環境にいる室内飼いの猫は、いつまでも子猫のような甘えん坊です。例えば、喉をゴロゴロ鳴らすのは、母猫から乳をもらうときのコミュニケーションの名残で、「安心しているよ」「満足しているよ」のサイン。毛布などを前足でモミモミする行動は乳を飲むときの動作、しっぽを立ててすり寄ってくる行動は甘えたいときの動作だといわれています。このような猫のしぐさを楽しみながら、心を通わすことができます。

人も猫も癒される♪

猫との遊び方

自分の縄張りに入ってきた獲物を一瞬で仕留めるのが、猫の「狩り」のスタイル。そのため、遊びは時間の長さよりも回数を増やすのがおすすめです。猫用のおもちゃで獲物の動きをうまく表現してあげると、猫も夢中になって遊びます。人も猫も一緒に楽しむことで、互いのストレス発散にもなります。

3 猫と長く一緒に過ごすために

猫を家族に迎えたら、最期まで責任を持って飼いましょう。特に大切なのは次の2つです。

健康と長生きのために

飼いきれない命を生み出さないよう、必ず不妊去勢手術をしましょう。手術をすることで生殖器の病気や繁殖に関するストレスもなくなり、猫は心穏やかに過ごすことができます。また、定期的なワクチン接種や健康チェックも大切です。

非常時に備えて

猫がうっかり外に出てしまったときのために、必ず「迷子札」をつけましょう。さらに動物病院で「マイクロチップ（皮膚の下に挿入する小型の記録装置）」を入れてもらうと、首輪が外れてしまっても飼い主を調べることができます。万が一の災害への備えとしても、飼い主が誰か分かるようにしましょう。

幸せな出会いを待つ猫たち

毎年100匹以上の猫が市保健所に保護されています。市保健所は、愛情と責任を持って飼うことができる人に、保護された猫を譲渡しています。詳しくは市公式ホームページをご覧になるか、生活衛生課へお問い合わせください。